

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 22 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370923

研究課題名(和文) アジア新興国の大都市郊外における変貌と再編に関する地域的研究

研究課題名(英文) Research into Changes and Restructuring in Suburban Areas of Major Cities in Developing Asian Nations

研究代表者

季 増民 (Ji, Zengmin)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：20278237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、上海大都市圏(中国)に重点を置きつつ、ジャカルタ大都市圏(インドネシア)、バンガロール大都市圏(インド)等を主要な調査対象とし、郊外地域を具体的に画定(地図化)し、その実態をマルチスケールでの詳細な調査によって解明した。研究方法では、住宅利用や所有状況に生じた変化とその空間への投影を、郊外地域に暮らす地付き農民・農民工・市民といった住民グループがたどってきた生活再建のプロセスと結び付けて分析した(生活再建と住宅利用や所有状況変動の軌跡を可視化する方法の開発)。さらに、郊外地域が都市圏で担うべき機能、持続可能な地域のための整備方針を具体的に提示した。

研究成果の概要(英文)：This research targeted the Jakarta metropolitan area (Indonesia), and the Bangalore metropolitan area (India) as major objectives with the focus on the Shanghai metropolitan area (China), specifically formulated (mapped) suburban regions, elucidated its accrual conditions through detailed investigations on a multi scale. With regards to the research method, changes that occurred in the housing utilization and ownership status, and projection to its space were analyzed by linking it with the process of life recovery which the indigenous farmers, migrant workers, and citizens who live in suburban regions (a method to visualize and trace the life recovery, housing utilization and fluctuation of ownership status was developed). Furthermore, functions that suburban regions must bear in the metropolitan area and development policy for sustainable regions were concretely presented.

研究分野：人文学

キーワード：都市化 郊外地域 生活再編 マルチスケール 新興国 アジア

1. 研究開始当初の背景

20世紀末から、経済成長・開発区の設置・人口流入に伴いアジア新興国の大都市郊外では、短期間に大規模に劇的な変化が発生している。土地利用の混在と住民の混住を特徴とする都市郊外地域は単に都市研究という学術的な研究対象ではなく、まさしく世界規模の社会・地域問題の焦点となっている(「課題としての都市郊外地域」)。その際、都市研究という枠組みでは捉えきれない「都市郊外地域」をいかにして研究の俎上に載せるのかという研究者に課せられた使命に対して、現状では十分に答えられていない。

それぞれの新興国が抱えている人口、社会、経済、文化、宗教などの実像と課題が集中的に投影されているアーバンフリンジ地域について地域・社会再編という視点に立ち、地域構造上の位置づけ、実態解明から整備方針の提示にいたるまで総合的に考察することが強く求められている。このアーバンフリンジ地域の実態解明は、新興国における社会的・経済的・地域的・文化的変容の特質を理解することにつながる。しかし、これまでアーバンフリンジ地域を正面から取り上げた研究はなく、都市研究や農村研究の枠組みではなく、「都市を含む地域」を対象としたマクロからミクロに至るマルチスケールを駆使した研究が待たれている。

2. 研究の目的

本研究では、アジアの大都市郊外を対象としてマルチスケールでの詳細な分析に基づいて、「アーバンフリンジ」地域を抽出し、その社会的・物質的な存立基盤、地域ガバナンスの可能性、持続発展可能な整備方針について検討する。その際、「遷移地帯」「Desakota：都市農村共存型大都市論」「メガシティ」といった既存の理論的枠組みを検討し上記課題に答えるための新たな枠組みを提起したい。また、対象としての

「地域」、分析枠組みとしての「地域」という地誌的な方法論を再考し、地理学的な社会貢献について新たな知見を得たい。

3. 研究の方法

(1)平成25年度では、衛星画像分析によるアーバンフリンジ地域の抽出、対象地域の選定を行う。土地利用、景観などの現地踏査、自治体でのヒアリング、統計データの分析、対象地域のデータセットの作成を行う。

(2)平成26年度では、アーバンフリンジ地域に自治体単位の統計データを重ね、マルチスケールで土地利用と地域社会の変化実態を現地調査により把握し、将来予測のために住民の意向調査を実施する。従来理論に関する検証を実施し、補足調査を随時行う。

(3)平成27と28年度では、調査対象地域同士の国際比較を通して、アーバンフリンジ地域の特定方法の検証とその改善策の提案を行い、それぞれの国の模式図を完成させ、判別や研究手法を確立した。

4. 研究成果

(1)25年度

地理学と社会学の研究方法を組み合わせた学際的研究：高度経済成長期における地域構造と社会構造の変容について、地理学と社会学のアプローチ方法を組み合わせることによりその範囲と変化を動的に抽出した。研究成果 雑誌論文。

郊外地域における生活者としてすべての住民を位置づける：その生活世界に正面から光をあて、移住から定住へ変わっていく過程及びその要因の分析を行った。研究成果 雑誌論文

住民間に見られる相互関係の解明：立ち退き農民の集合住宅、内陸農村から流入した農民工の生活空間(専用宿舎・貸家群)、都市から脱出した新中間層の生活空間

(Gated community) 在住者の相互依存関係と動的平衡を探った。

研究成果の一部は、「周辺から見た大都市圏の変遷 - 中国の事例から」にまとめ、単独発表した。学会発表

(2)26 年度

都市・農村を含む「地域」研究という地理学独自の視野・研究方法を適用し、工業開発型の昆山市と住宅をはじめとする総合開発型の無錫市について比較検討を行い、それぞれの特徴と共通性を抽出した。研究成果 図書

新興国における都市化のカギを担うのは「ヒトの都市化」である。農民工を移住先地域の実質的な生活者として明確に位置づけて、地域の視点に立って真正面から農民工の生活実態とそのコミュニティに向き合った。中国 Z 省 K 市を事例に地域と生活のアンクルから、即ち、地域問題としての農民工、移住先社会の一員としての農民工、生活者としての農民工に焦点を当てその生活世界を視た。「農民工の市民化」プロセスについてその「可視化」を目指して実態調査に基づき解明した。研究成果 雑誌論文

新興国間比較研究の分析枠組み提示のため、インドネシアジャカルタについて、衛星画像の解析や文献整理を踏まえ、現地調査及び意向調査を実施した。現地調査に際して、ホームビジット方式で民家に入り、詳細な聞き取りを実施した。マルチスケールの視角（大組・隣組・一族・家族・貸間など）や、生活者のアンクル（地付き住民・借家人・オールドカマー・ニューカマーなど）の両者を有機的に組み合わせながら、地域における相互のつながりを立体的に論証した。研究成果 雑誌論文

新興国の郊外地域における住民同士の関係、その投影としての空間軌跡や景観につ

いて考察した上で、筆者が十数年前から調査を続けている上海とジャカルタ郊外との比較検討を行った。研究成果 雑誌論文

研究成果は、日本地理学会 2014 年秋季学術大会で単独発表した。学会発表

(3)27 年度

中国沿海地方都市 K 市を事例に、郊外地域への農民工生活圏の偏在、中心市街地と郊外におけるいわゆる「住み分け」の実態を、詳細なデータに基づき明らかにする。次に「農民工の生活圏の分化」では、農民工の生活空間（地域性）と年齢、職業、学歴、出身地などの属性とを密接に関連づけて、「人と場」との相関性から分析する。さらに農民工の集中によって郊外地域に投影された多様な土地利用の混在や異質な住民の混住の特徴について、現地調査を踏まえ、その実態を明らかにする。最後、農民工属性と生活圏構成との関連性を考察している。研究成果 雑誌論文

同じく沿海地域 Z 省の地方都市である K 市を事例に、「住み分け」から「住み替え」を経て、移住先の地域社会へと融合していく農民工の定住プロセスの空間的軌跡とそのメカニズムを複眼的に解明した。研究成果 雑誌論文

研究成果は、関連学会で単独発表した。学会発表 ~

(4)28 年度

2 つの研究業績を得ることができた。郊外地域には住宅を購入して移り住んできた住民と、改革前の生産大隊を引き継いだ事業体の社員となった地付き村民と、さらに永住権を取得した元農民工の 3 者は、異質要素として互いに混じり合わないモザイク構造が出現していることが明らかとなった。地付き住民と永住者の両者は、自己形成、学歴取得、就職、生得的家族から獲得的家

族へ、子育て、老後といったライフコースにおけるそれぞれの分岐点で時期的なズレを抱えながらも重なる部分がある。

同じ空間に造成された分譲住宅団地は、一種の gated community としての性格を持つ。ゲートで外から閉ざすことで、住民は、自分たちだけの安寧な生活を楽しむことが出来る。そして、住宅の資産価値は保全され、周囲の住宅以上に価格が高騰することが、分譲住宅団地に住む人々の共通の関心事となっている。研究成果 雑誌論文

郊外地域における混住の状況、借家人であるニューカマーとの関係、立ち退き後の生活の変化、自我認識の変化などを把握するため、2008年11月、09年3月、09年8月、10年・11年・12年・13年・14年5月に地付き農民に対しアンケート調査を実施した。2008年から2014年までを通して、回答者の生活は社会・経済の発展に伴い、著しく改善し、生活の質も大きく向上していた。一方、農村集落時代から引きずってきた基本的な生活姿勢、習慣、交友・交際圏、また貯蓄などの生活防衛、儉約精神などに象徴される農民に通底する根源的な習性に大きな変化が起きていない。特に世帯主世代は、後継者世代と比べると、親戚との付き合いに限定するように、時代の変化には慎重且つ保守的な態度で対応している。研究成果 雑誌論文

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

季増民、永住農民工の生活実態と意向調査から見た郊外地域の変貌、「椋山女学園大学研究論集」社会科学篇、査読無、第48号、2017、53 - 69

季増民、開発下の都市周辺地域地付き農民の生活変化と将来設計 - 江蘇省昆山市における意向調査に基づく考察 -、「椋山

女学園大学文化情報学部紀要」、査読無、第16巻、2017、41 - 64

季増民、中国沿海都市における農民工生活圏の存立、「椋山女学園大学文化情報学部紀要」、査読無、第15巻、2016、43 - 65

季増民、中国における農民工生活圏の構成と地域的特徴、「椋山女学園大学研究論集」社会科学篇、査読無、第47号、2016、81 - 100

季増民、中国における「農民工の市民化」の推進と課題、「地域創造学研究 XXIV」、奈良県立大学研究季報、査読無、第25巻第2号、2015、81 - 105

季増民、ジャカルタ大都市圏の郊外における地域変貌 北ジャカルタ市東クラバガディン町を事例に、「椋山女学園大学文化情報学部紀要」、査読無、第14巻、2014、11 - 31

季増民、ジャカルタと上海の郊外における地域変貌の比較考察 - 現地調査を踏まえて、「椋山女学園大学研究論集」社会科学篇、査読無、第46号、2014、85 - 99

季増民、開発下の都市近郊地域における住宅の用途変更 立ち退き農民による生活再建の一方法、「椋山女学園大学文化情報学部紀要」、査読無、第13巻、2013、45 - 61

季増民、地付き農民の不動産変動から見た都市近郊地域の再編 集落から分譲住宅までの空間軌跡に注目して、「椋山女学園大学研究論集」社会科学篇、査読無、第45号、2013、131 - 150

Ji Zengmin: Reorganization of Suburban Areas in terms of Real Estate Utilization and Transformation of Evicted Farmers, Edited by Yukio Himiyama: [Towards Sustainable Land Use in Asia (V), SLUAS Science Report 2014」、査読無、2013、5 - 27

〔学会発表〕(計6件)

季増民、中国都市地理学の現状と課題(趣旨説明)、日本地理学会 2015 年秋季学術大会、公開シンポジウム「現代中国の都市地理学」、2015 年 9 月 18 日、「愛媛大学(愛媛県・松山市)」

季増民、新興国家大都市周辺における農民の市民化、国際著名学者学術報告会 2 内蒙古大学経済管理学院、2015 年 8 月 30 日、「フフホト市(中国)」

季増民、Turnover in Landed-Peasant Residency as an Indicator of Transformation in Suburban Areas of Developing Countries、International Conference on Urbanization and Urban Transformation in China, 2015 年 6 月 7 日、「上海市(中国)」

季増民、発展途上国都市周縁部の農民市民化過程、スマート都市化シリーズ 85 回同済大学建築与都市計画学院、2015 年 3 月 23 日、「上海市(中国)」

季増民、持続可能な郊外地域・社会の形成、日本地理学会 2014 年秋季学術大会「シンポジウム 8 フューチャー・アース(FE)と土地利用・陸域変化研究」、2014 年 9 月 21 日、「富山大学(富山県・富山市)」

季増民、周辺から見た大都市圏の変遷 - 中国の事例から、人文地理学会第 49 回都市圏研究部会、2014 年 1 月 11 日、「神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ(大阪府・大阪市)」

〔図書〕(計1件)

Ji Zengmin, Yang Shan: Springer, Characteristics of Urban Expansion in the Yangtze River Delta in a High Economics Growth Period, Edited by R.B.Singh: 「Urban Development Challenges, Risks and Resilience in

Asian Mega Cities」, 2015, 251 - 272.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

季 増民 (Ji Zengmin)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号: 20278237